第6章

拡張機能を使う

RDC-i Explorer Plug-Inを使う 130
RDC-i Mounterを使う 133
カメラの設定をバックアップする ... 136
バックアップする 136
バックアップした設定をカメラに戻す 138
TWAIN機能を使う 140
Windowsの場合 140
Macintoshの場合 142

RDC-i Explorer Plug-Inを使う

WindowsにRDC-i Explorer Plug-In（RDC-iエクスプローラプラグイン）がインストールされていれば、カメラとパソコンの間でデータをコピーしたり、カメラの設定をパソコンにバックアップしたりすることができます。

重要

・パソコンとのデータ通信中はフラッシュランプ（赤色）が点滅します（ただし、LAN接続の場合には点滅しません）。通信中はケーブルを抜いたり、カメラの電源を切らないでください。カメラやパソコン本体に影響をあたえることがあります。通信中にケーブルを抜いてしまった場合は、カメラとパソコンの電源を入れ直してください。
・カメラをバッテリーで使用するのはなるべくさけ、ACアダプターをご使用ください。操作中に電源が切れると、カメラやパソコン本体に影響を与えることがあります。
・エクスプローラ上やデスクトップ上では、カメラのメディアに対するファイルの読み書きが自由にできますが、アプリケーションからカメラのメディアの読み書きはできません。いったんパソコンのディスクに保存してからエクスプローラでコピーしてください。
・［RDC-i］のアイコンはカメラと接続されていなくても、常時フォルダ表示領域にマウントされています。カメラが接続されていない状態でアクセスしようとすると接続エラーとなります。
・非圧縮の静止画は、特殊なTIFFファイルで保存されています。このため、RDC-i Explorer Plug-Inを使ってカメラからパソコンにファイルをコピーしても、一般的なグラフィックアプリケーションソフトでは開けない場合があります。この場合には、TWAIN（P. 140）を使ってファイルを開いてください。

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［ ］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷［スタート］メニューから［プログラム］の［エクスプローラ］を選択します。

エクスプローラが起動します。

❸ ウィンドウの左側の［RDC-i］にポインタを合わせ右クリックします。

メニューが表示されます。

❹［RDC-i プロパティ］をクリックします。



カメラの IP アドレスを設定するウィンドウが表示されます。

❺ カメラの液晶モニターに表示されている IP アドレス（「.」で区切られた 4 つの数字）を入力します。



❻［OK］をクリックします。

これで、カメラがパソコンに認識されます。

［RDC-i］の左側の［＋］をクリックすると、カメラのメディアが表示されます。あとは、普通のディスクのようにフォルダやファイルを開いたり、コピーしたり、削除したりすることが自由にできます。
通常は、「DCIM」フォルダ内の「100ricoh」に画像が保存されています。

カメラとパソコンの接続を外すときやカメラの電源を切る場合には、［RDC-i プロパティ］のメニューから［切断］を選択してから、作業を行ってください。

重要

- RDC-i Explorer Plug-Inを使って、メディアのフォルダ名を変更することができますが、DCFのフォーマットに基づいてファイル名変更を行わないと、カメラで正常にフォルダが読み込めなくなります。フォルダ名は「100RICOH」のように、半角数字3文字＋アルファベット半角5文字でないとカメラ内で認識できません。
- また、RDC-i Explorer Plug-In を使って、カード内のフォルダ名変更を行い、そのカードを他のカメラで使用したときには、フォルダ名が読めなくなったり、保存した写真が読み込めない場合があります。

補足　・マイコンピュータをダブルクリックして表示されるウィンドウでも、カメラのメディアを扱うことができます。

コラム

Microsoft PowerPointのプレゼンテーション資料を使う

PowerPointを使って作成したプレゼンテーション資料を、カメラにコピーすれば、いつでもどこでもプレゼンテーションが可能になります。

PowerPointで作成したプレゼンテーション資料を、「JPEGファイル交換形式」という形式で保存します。



この形式で保存すると、新しいフォルダが作成され、プレゼンテーション資料の各ページは、1枚ずつJPEG形式の画像ファイルとしてその中に保存されます。続いて、RDC-i Explorer Plug-Inを使って、そのフォルダ内の各ファイルをカメラ側の「DCIM」フォルダ内にある適当なフォルダにコピーします。

あとは、カメラ側で、コピー先として指定したフォルダを選択し、オートで再生すれば、カメラひとつでプレゼンテーションを行うことができます。

なお、パソコンにカメラ用のカードをセットし、プレゼンテーション用の画像をコピーすると、カメラでうまく表示されない場合があります。

RDC-i Mounterを使う

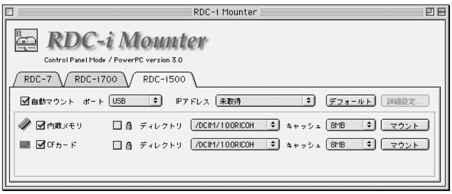
Macintosh に RDC-i Mounter（RDC-i マウンター）がインストールされていれば、カメラとパソコンの間でデータをコピーしたり、カメラの設定をパソコンにバックアップしたりすることができます。

重要

- パソコンとのデータ通信中はフラッシュランプ（赤色）が点滅します（ただし、LAN接続の場合には点滅しません）。通信中はケーブルを抜いたり、カメラの電源を切らないでください。カメラやパソコン本体に影響をあたえることがあります。通信中にケーブルを抜いてしまった場合は、カメラとパソコンの電源を入れ直してください。
- カメラをバッテリーで使用するのはなるべくさけ、AC アダプターをご使用ください。操作中に電源が切れると、カメラやパソコン本体に影響を与えることがあります。
- ファインダ上では、カメラのメディアに対するファイルの読み書きは自由にできますが、アプリケーションからカメラへの書き込みはできません。アプリケーションで作成したデータをカメラで再生したい場合には、いったんパソコンのディスクに保存してから、ファインダでカメラにコピーしてください。（このとき、ファイル名を半角英数字8文字、拡張子3文字の形式にしてからコピーしてください）
- 非圧縮の静止画は、特殊な TIFF ファイルで保存されています。このため、RDC-i Mounter を使ってカメラからパソコンにファイルをコピーしても、一般的なグラフィックアプリケーションソフトでは開けない場合があります。TWAIN（P. 140）を使ってパソコンに転送すれば、一般的なグラフィックアプリケーションソフトで開くことが可能となります。

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［ ］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷ アップルメニューの［コントロールパネル］の［RDC-i Mounter］を選択します。



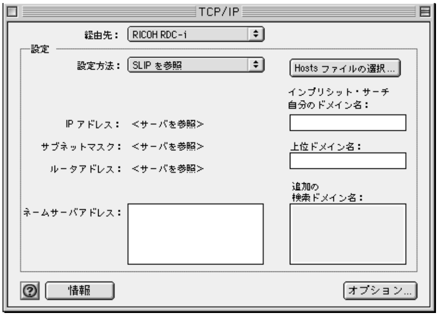
❸「ポート」を選択します。

USB 接続の場合には［USB］を、LAN 接続の場合には［Ethernet］を選択します。

❹ アップルメニューの［コントロールパネル］から［TCP/IP］を選択し、接続方法に応じて、次のように設定を行います。

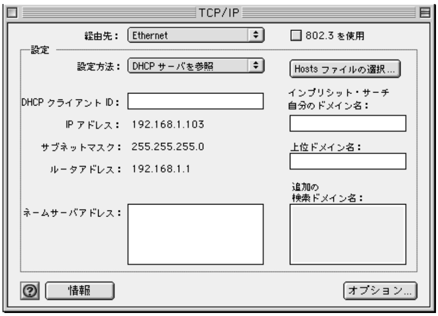
● USB 接続の場合

お使いのMacintoshがPPP接続でインターネットに接続する設定になっている場合には、以下のように［経由先］として［RDC-i］を選択します。
ネットワークでインターネットに接続する設定になっている場合には、［経由先］として［Ethernet］を選択します。
いずれでもない場合には、［経由先］として［RDC-i］を選択します。



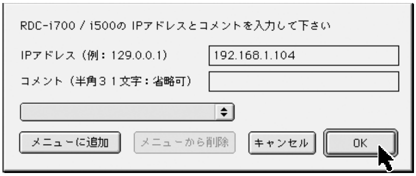
● LAN 接続の場合

［経由先］として［Ethernet］を選択します。



設定が終わったら、TCP/IP のコントロールパネルを閉じます。

❺ LAN接続の場合は、RDC-i Mounterコントロールパネルの［IPアドレス］のメニューをクリックして、［IPアドレスを設定］を選択します。カメラの液晶モニターに表示されているIPアドレス（「.」で区切られた4つの数字）を入力し、［OK］をクリックします。



❻ 接続したいメディアの［マウント］をクリックします。

これで、デスクトップにカメラのアイコンが表示されます。

補足
・ディレクトリを指定することで、デスクトップにマウントするフォルダを変えることができます。
・USB接続の場合、［自動マウント］にチェックを付けておけば、カメラを接続すると自動的にマウントするようになります。

あとは、フォルダやファイルを開いたり、コピーしたり、削除したりすることができます。
接続を終えるときはRDC-i Mounterコントロールパネルの［アンマウント］をクリックするか、カメラのアイコンを［ごみ箱］にドラッグ&ドロップしてください。

重要
・RDC-i Mounterを使って、メディアのフォルダ名を変更することができますが、DCFのフォーマットに基づいてファイル名変更を行わないと、カメラで正常にフォルダが読み込めなくなります。フォルダ名は「100RICOH」のように、半角数字3文字＋アルファベット半角5文字でないとカメラ内で認識できません。
・ファイル名は、半角英数字8文字＋拡張子（「.」＋半角英数字3文字）の形式で指定してください。
・また、RDC-i Mounterを使って、カード内のフォルダ名変更を行い、そのカードを他のカメラで使用したときには、フォルダ名が読めなくなったり、保存した写真が読み込めない場合があります。
・PPPでインターネット接続をしている場合、［TCP/IP］のコントロールパネルで［RDC-i］を選択するとインターネットに接続できなくなります。インターネットに接続するときは、［経由先］を［PPP］に戻してください。

カメラの設定をバックアップする

現在カメラに設定されている設定情報（撮影した画像や動画、録音した音声のデータ、および JOB Navi.関連の設定以外の情報）を、パソコンにバックアップする「設定情報の保存」の方法と、バックアップした情報をカメラに戻す「設定情報の再登録」の方法を説明します。

補足 ・この機能は、次のような場合に使います。
- ・万が一の事故や操作ミスに備えて、カメラの設定をバックアップしておきたいとき。
- ・設定した内容を共有したいとき（この場合は、バックアップを実行した後、別のカメラを接続し、リストアを実行します）。
- ・1台のカメラを、複数の人間で利用するとき（あらかじめ、各人それぞれがカメラを設定した後、バックアップしておき、使用者が変わるたびにリストアで設定を入れ替えます）。

バックアップする

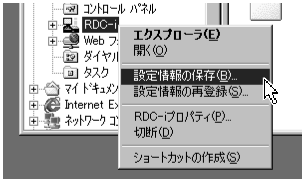
■ Windows の場合

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［ ］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷［スタート］メニューから［プログラム］の［エクスプローラ］を選択します。

エクスプローラが起動します。

❸［RDC-i］のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［設定情報の保存］を選択します。



保存場所やファイル名を指定するダイアログボックスが表示されます。

❹ 保存場所やファイル名を指定した後、［保存］をクリックします。

これで設定情報が、パソコン側に保存されます。

補足　・ここでは、右クリックを使う方法を説明していますが、エクスプローラの［ファイル］メニューからもこの機能を選択することができます。

■ Macintosh の場合

Macintosh の場合には、「設定情報の保存」、「設定情報の再登録」は、「設定メニュー」というアプリケーションを使って行います。

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［〜］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷ アップルメニューの［コントロールパネル］の［RDC-i Mounter］を選択します。

RDC-i Mounter のウィンドウが表示されます。

❸［詳細設定］をクリックします。

補足　・［詳細設定］は、いずれかのメディアがマウントされていないと、クリックできません。まだメディアがマウントされていない場合は、先にメディアをマウントしておいてください。（P. 133）

・接続方法や状況によっては、カメラのIPアドレスを入力する画面が表示されることがあります。この場合には、カメラの液晶モニターに表示されている IP アドレスを入力してください。

処理選択の画面が表示されます。

❹［設定情報の保存］を選択します。



保存場所やファイル名を指定するダイアログボックスが表示されます。

❺ 保存場所やファイル名を指定した後、［保存］をクリックします。

これで設定情報が、パソコン側に保存されます。

バックアップした設定をカメラに戻す

パソコンのディスクにバックアップされたカメラの設定ファイルを、カメラに戻します。

重要
・この機能を実行すると、現在のカメラの各種設定は、すべて上書きされます。

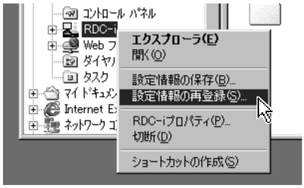
■ Windows の場合

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［ ］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷［スタート］メニューから［プログラム］の［エクスプローラ］を選択します。

エクスプローラが起動します。

❸［RDC-i］のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［設定情報の再登録］を選択します。



読み込むファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。

❹ ファイルを選択した後、［開く］をクリックします。

これで選択した設定情報がカメラに転送されます。

❺ いったんカメラの電源を切り、10 秒ほど待ってから再び電源を入れます。

これで、転送された設定でカメラが使えるようになります。

補足
・ここでは、右クリックを使う方法を説明していますが、エクスプローラの［ファイル］メニューからもこの機能を選択することができます。

■ Macintosh の場合

❶ カメラを正しく接続し、カメラのモードダイヤルを［ ］に合わせます。そしてカメラとパソコンの電源を入れます。

❷ アップルメニューの［コントロールパネル］の［RDC-i Mounter］を選択します。
RDC-i Mounter のウィンドウが表示されます。

❸［詳細設定］をクリックします。

補足
・［詳細設定］は、いずれかのメディアがマウントされていないと、クリックできません。まだメディアがマウントされていない場合は、先にメディアをマウントしておいてください。
・接続方法や状況によっては、カメラのIPアドレスを入力する画面が表示されることがあります。この場合には、カメラの液晶モニターに表示されているIPアドレスを入力してください。

処理選択の画面が表示されます。

❹［設定情報の再登録］を選択します。



読み込むファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。

❺ ファイルを選択した後、［開く］をクリックします。
これで選択した設定情報がカメラに転送されます。

❻ いったんカメラの電源を切り、10 秒ほど待ってから再び電源を入れます。
これで、転送された設定でカメラが使えるようになります。

6
拡張機能を使う

TWAIN 機能を使う

TWAIN機能を使えば、アプリケーションソフトウェアから直接カメラに記録されている画像（あるいはディスクに保存されている画像）を読み込んで表示し、編集することができます。ただし、TWAIN機能が使えるのは、TWAIN対応のアプリケーションソフトウェアに限られます。

補足
・一般に、グラフィックアプリケーションソフトウェアの多くが、TWAINに対応しています。
・非圧縮の静止画は、特殊なTIFF形式のファイルです。このため、RDC-i Explorer Plug-In や RDC-i Mounter を使って、非圧縮の静止画をカメラからパソコンのディスクにコピーしても、その画像を一般的なグラフィックアプリケーションソフトウェアで開けないことがあります。このような場合、TWAIN を使えば、その画像（パソコンのディスクの画像）を開くことができます。

Windows の場合

Windows の入ったパソコンで TWAIN 機能を使う方法を紹介します。

❶ カメラが正しく接続されていること、カメラの電源が入っていること、カメラのモードダイヤルが［ ］になっていることを確認します。

❷ パソコン側でTWAIN対応アプリケーションソフトウェアを起動します。

ここでは、市販のアプリケーションソフトウェア「DU-7」を例にして説明を進めます。

❸［ファイル］メニューから［TWAIN対応機器からの入力］を選択します。

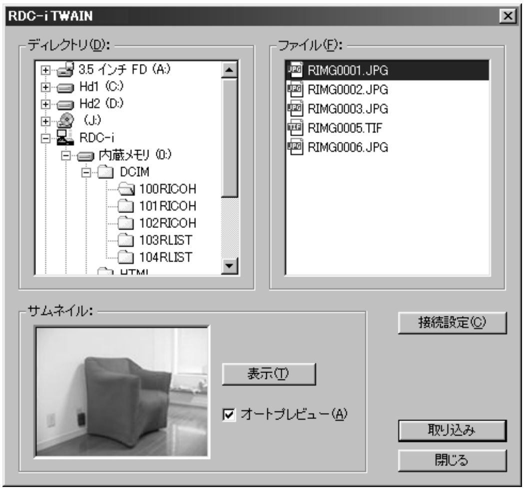
アプリケーションソフトウェアによって、メニュー内の機能名称は異なります。詳しくは、アプリケーションソフトウェアの説明書をご覧ください。



補足　・TWAIN対応機器が複数台接続されている場合には、前記の操作を行う前に使用するTWAINドライバ（本カメラの場合は「RDC-i TWAIN」）を選択しておく必要があります。この操作には、「TWAIN対応機器の選択」などといった名前の機能を使います。多くの場合、[TWAIN対応機器からの入力］のすぐそばにこの項目があるはずです。詳しくは、アプリケーションソフトウェアの説明書をご覧ください。
・接続方法や状況によっては、カメラのIPアドレスを入力する画面が表示されることがあります。この場合には、カメラの液晶モニターに表示されているIPアドレスを入力してください。

メディアやフォルダ、ファイルを選択する画面が表示されます。（アプリケーションソフトによっては、ファイル形式などを指定する手順が加わる場合があります）

❹ メディア（またはディスク）、フォルダを選択し、表示されたファイル一覧から、読み込みたい画像を選択した後、[取り込み］をクリックします。



これで、選択した画像が読み込まれ、画面に表示されます。

補足　・サムネイルの部分の［表示］をクリックすると、選択している画像の縮小イメージを確認することができます。
・［オートプレビュー］にチェックマークを付けておくと、選択した画像の縮小イメージが自動的に表示されるようになります。
・［接続設定］をクリックすることで、カメラのIPアドレスを変更することができます。

Macintoshの場合

Macintosh でTWAIN機能を使う方法を紹介します。

❶ カメラが正しく接続されていること、カメラの電源が入っていること、カメラのモードダイヤルが［ ］になっていることを確認します。

❷ RDC-i Mounterを使って、画像を読み込みたいカメラのメディアをデスクトップにマウントします。

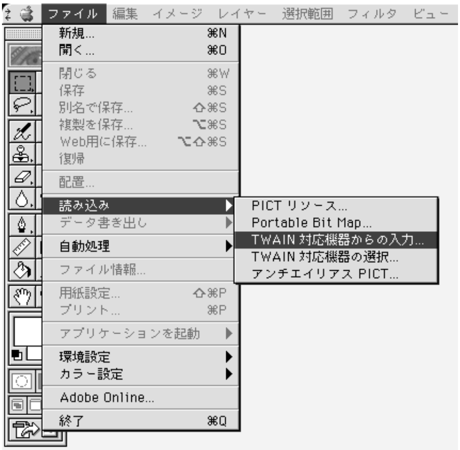
カメラのメディアのマウントの方法については「RDC-i Mounterを使う」（P. 133）をご覧ください。

❸ パソコン側でTWAIN対応アプリケーションソフトウェアを起動します。

ここでは、市販のアプリケーションソフトウェア「Photoshop」を例にして説明を進めます。

❹［ファイル］メニューから［TWAIN対応機器からの入力］を選択します。

アプリケーションソフトウェアによって、メニュー内の機能名称は異なります。詳しくは、アプリケーションソフトウェアの説明書をご覧ください。



補足
・TWAIN対応機器が複数台接続されている場合には、前記の操作を行う前に使用するTWAINドライバ（本カメラの場合は「RDC-i TWAIN」）を選択しておく必要があります。この操作には、「TWAIN対応機器の選択」などといった名前の機能を使います。多くの場合、［TWAIN対応機器からの入力］のすぐそばにこの項目があるはずです。詳しくは、アプリケーションソフトウェアの説明書をご覧ください。

・接続方法や状況によっては、カメラのIPアドレスを入力する画面が表示されることがあります。この場合には、カメラの液晶モニターに表示されている IP アドレスを入力してください。

次のような画面が表示されます。

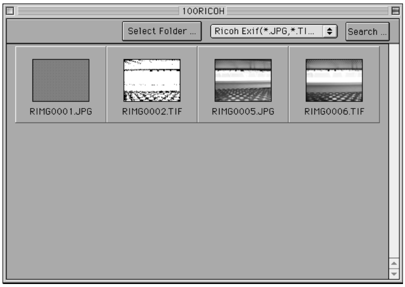


❺［Select Folder］をクリックします。

フォルダーを選択するダイアログボックスが表示されます。

❻いったん［DESKTOP］をクリックした後、メディアを選択し、目的のフォルダーを選択して、［Select］をクリックします。

選択したフォルダーに入っている画像の一覧が表示されます。



❼目的の画像をダブルクリックします。

これで、選択した画像が読み込まれ、画面に表示されます。